

一次の文章は「が二〇二三年一〇月一七日、ロが二〇二四年一月一六日に朝日新聞にのせられた記事です。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

I

① 今年は秋の到来が待ち遠しかった。例年なら、ひと月おくれで行われる仙台七夕の期間中に立秋をむかえると、残暑のなかにも色なき風を感じるようになり、短い東北の夏なごりをおしむ心地となるのだが、今年は九月に入っても猛暑が続いた。

暑かったのは、人間だけではなく、いきものや植物にとつても厳しい夏だっただろう。私の住む集合住宅のしだれ桜の世話をしている植木屋の親方が、酷暑の折に肥料やりと殺虫剤散布におとずれたときに少し話をすると、公園のかしの木が枯れたりしてると言い、これまでの夏の水まきの通説が成り立たず、朝の九時までと夕方だったのが、朝まくと、日中に土の中の温度が上がってしまい、お湯②シヨウタイになってしまふ、われわれにも何がいいのかわからないジヨウタイなんです、とこぼした。それを聞いて、人間は室内に冷房があるが、動植物は外で酷暑にたえている、とあらためて痛感させられた。

それからは、水やりは夕方につつぷりと、専用庭に置いている野鳥のための水盤の水は、一日に三度取りかえるように心がけた。朝夕には、すっかり慣れた風情でがび鳥がつがいに入浴し、ときおりおとずれる目白やしじゅうからは、くちばしを水につけるのみ。ひよどりも最初のうちはそうだったが、暑さに③音を上げたのか、おずおずと水浴びもするようになり、ぬれてしまったトサカのような頭を桜の枝の上でふっている。屋内設置型の生ごみ堆肥化容器で処理するようにしている生ごみをうめた所の土は、ほり起こされてやわらかいので、すずめたちの④かっこうの砂浴びの場所となり、砂風呂、水風呂、水飲み場と、わが家の庭は、さながらすずめの健康ランドの注¹様相を呈した。

終わらない夏も、さすがに十月の声を聞いて、東北は一気に秋めいてきた。近所の野草園のフェンスぎわにとつじよとして現れる彼岸花は、秋の彼岸から十日ほどおくれで咲き出した。さくの外からのぞき見える園内のぶなの木は黄葉が始まっており、樹下には、牧野富太郎が仙台で発見し、妻の名にちなんで命名したスエゴザサが、葉が裏に向かって巻いているという特ちょうを見せ

てしげっている。そこへ、ななめからさす秋の透明な木漏れ日。

⑤ 五年前のこの時季に、イングランド南西部に位置するサマセット州のウエルズという街をおとずれた。そこに住むベンとリズ夫妻は、染めと編みの作家である注² 連れ合いの知人で、フェルト作家のリズが仙台のギャラリーで個展を開くためにわが家に滞在していたときに東日本大震災（二〇一一年）に遭遇した。個展は三日目に注³ 中止をよぎなくされてしまい、今度はリズの⑥ ティア^ンで、二人展をウエルズのギャラリーで開くことになり、私たちが滞在する番となった。

白い注⁴ 瀟洒な二階建ての家の庭には、ななかまどの木があり、赤く色づいた小さな実をたくさん付け、紅葉もはじまっていた。体験したことのない大きな地震は、リズのトラウマとなり、橋の上などを車で通るときにゆれたりすると、よみがえってきてこわくなる、と打ち明けられた。そして、震災後に、自分たちだけが先に安全な英国に帰ってきたことへのわびも。そんなことはない、と私たちはかぶりをふった。二人展のタイトルは、『Komorebi（木漏れ日）』とした。〈木漏れ日〉は〈わびさび〉のように英語の直訳語がない日本語の表現だということにリズは⑦ キョウミを示し、賛同したのだった。

いま、連れ合いの仕事場の壁には、コロナが猛威をふるっていた二〇二一年一〇月にリズから送られて来た〈二人の無事を祈ります〉と書かれたカードが留めてある。⑧ そこにも、ななかまどの葉のプリントがそえられてあり、調べてみて、その花言葉の一つは、あなたのことを見守ります、だと知った。

II

朝晩の冷え込みが増してきた晩秋の朝、⑨ わが家の庭で今年もサフランの花が咲き始めた。

それはもともと、集合住宅のとなりの庭に咲いており、フェンスの下を球根が越境してきた花を、少しだけいたのがはじまりだった。ひさしぶりに注⁵ チャベックを引けば、園芸熱は〈隣りから伝染することがある〉というとおりで、それまでは、クロッカ

スに似たうすむらさき色の花を見て、きれいだな、何の花だろう、と遠くから気にかけていた。

ご主人からサフランだと教えられ、あらためて手に取ってみると、陽にすけるうすむらさきの花びらと黄色のおしべ、三つに分かれている赤いめしべのコントラストがとてもあざやかであり、めしべは、乾燥させればたしかに目になじみのある、料理の調味料や着色料として⑩重宝するサフランそのものだった。

やがて、おとなりは引越して行かれ、そのさいにも球根を分けていただき、庭隅の一面をサフランの花が占めるようになった。吉岡実の「サフラン摘み」という詩の冒頭に、〈クレタの或る王宮の壁に／「サフラン摘み」と呼ばれる華麗な壁画があるそうだ／そこでは 少年が四つんばいになって／サフランを摘んでいる〉というフレーズがある。確かに、花の背が低いから、しゃがんで摘むことになり、四つんばいになって、というのがまさに実感された。

朝陽を浴びて咲いているサフランを摘むときには、かすかにあまいにおいがただよい、ミツバチも来ている。一週間ほど、連日三十本ほど収穫できるが、乾燥させるとほんの少しになるから、高価なのはよくわかる。

ところで、小説家で軍医でもあった森鷗外に「サフラン」と題された随筆があり、こんなことを書いている。〈たこ 楓と云ふものを揚げない、こま 独楽と云ふものを廻さない。隣家の子供との間に何等の心的接触も成り立たない。そこでいよいよ本に読み耽つて、器に塵の附くやうに、いろいろの物の名が記憶に残る。そんな風で名を知つて物を知らぬ片羽になつた〉。

⑪ 今の子供は、家の中でゲームばかりして、正月でも外で遊ぶ姿を見かけない、とよく言われるが、文豪鷗外も今の子供たちと同じような育ち方をしたようだ。その鷗外が大人になったある日、花屋の店先で、サフランの花がひからびた球根から咲き出ているのを見かけ、球根を二つ買い、はち植えて書齋に置く。花は枯れてしまうが、冬の時季にあつて、〈水も遣らずに置いたのに、活気に満ちた、青々とした葉が叢がって出た。物の生ずる力は驚くべきものである〉とその⑫に鷗外は目をみはる。サフランについて、名前と物とが一致した喜びも伝わってくるよう。

花が終わった後のわが家のサフランも、まさに青々と叢がっている。主を失った隣家の庭は枯れ草色のやぶと化して、すずめのかっこうの遊び場となっているものの、その根元には、やはりサフランの青がのぞいている。

さて、目を海のほうへと転じると、葉をすっかり落とした大きなケヤキの樹間をすかして水平線が光っているのが見える。ケヤキの隣には、濃緑色の葉を付けたスギの木が並んでいる。

以前、『樹は語る』という著書がある樹木研究家の清和研二さんといっしょに森を歩く^⑬キカイがあった。そのときに、清和さんがふと足を止めて、ここはいいなあ、と傾斜地を指差し、「ほら、広葉樹のホオノキの高木と、針葉樹のアカマツとが並んで樹高をのばしているでしょう。花粉症でさらわれるスギを全部切れればいい、というのではなくて、針葉樹に広葉樹も混じった森が理想の姿なんです」と教えた。

ケヤキとスギは寄りそってかすかにこずえをゆらしている。^⑭賛成(注6)ダコール)、とささやき合っているかのよう^⑮に。

『ケヤキのハンモック』佐伯一麦^{さへきかずみ}

注1 様相を呈した。・・・ようすをあらわした。

注2 連れ合い・・・(ここでは)筆者自身の妻のこと。

注3 中止をよぎなくされてしまい、・・・中止する以外に方法がなくなってしまう、

注4 瀟洒な・・・すつきりと洗練されているさま。

注5 チャペックを引けば、・・・チェコの作家であるチャペックの言葉を引用すると、

注6 ダコール・・・相づちを打つときに使うフランス語。

問一 ―― 部①「今年は秋の到来が待ち遠しかった」とありますが、筆者はなぜ「待ち遠しかった」のですか。その理由を解答らんに合うように、十六字でぬき出して最初と最後の五字を書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問二 ―― 部②・⑥・⑦・⑩・⑬のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問三 ―― 部③「音を上げた」・④「かっこうの」の意味として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

③ ア 体力が持たなかった イ 泣き出しそうだった ウ 大声を出してしまった

エ たえきれなくなった オ 弱音をはいてしまった

④ ア ぜいたくな イ 他にはない ウ 形がきれいな エ 非常にすばらしい オ ちょうどよい

問四 ―― 部⑤「五年前のこの時季」とありますが、ここでは西暦せいれき何年何月のことを書きなさい。

問五 ―― 部⑧「そこにも、ななかまどの葉のプリントがそえられてあり」とありますが、筆者は、「リズ」がカードにななかまどの葉のプリントをそえた気持ちをどう想像していますか。その説明として適当なものを、次のア～オのうちから二つ選び、記号で答えなさい。

ア ななかまどは、小さな赤い実がたいへんきれいで印象に残るけれど、紅葉した葉の方が美しいと思う気持ち。

イ 大震災の時に、自分たちだけが安全なイギリスに戻ったことは、決して許されなかったと思う気持ち。

ウ 五年前、庭のななかまどの実が赤く色づく頃にあなたたちが私の家に滞在したことを忘れないという気持ち。

エ たとえどんな状況でも、どこにいても、あなたたちの無事を祈り続け、いつも見守っていますという気持ち。

オ コロナウイルスの世界的な流行と日本で体験した大震災、そのおそろしさは決して忘れませんという気持ち。

問六 —— 部⑨「わが家の庭で今年もサフランの花が咲き始めた」とありますが、自宅の庭でサフランを育てるようになる前に、筆者がサフランの花についてどれくらいの知識を持っていたのかを説明した次の文の 部 A ～ E に当てはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

クロッカスに似た花だと思っていたが、花の名を知らず、 A と遠くから気にかけるだけだったが、サフランだと名を教えられて手に取ってみると、 B の花びらと C のおしべ、 D めしべのコントラストがあざやかで美しく、そして、めしべは、 E に使われる、あのサフランだとわかった。

問七 名前も知らなかったサフランの花を自宅の庭で育てるようになった筆者の体験と、サフランの花が咲き出ている、ひからびた球根を買い、はち植えにしてそばに置いた鴟外の体験に共通する感情を表す言葉を、文中から十二字でぬき出しなさい。
(句読点は字数に入れません。)

問八 —— 部⑩「今の子供は、家の中でゲームばかりして、正月でも外で遊ぶ姿を見かけない、とよく言われるが、文豪鴟外も今の子供たちと同じような育ち方をしたようだ」とありますが、そのような育ち方をすると、「物を知る」ということについてどんな風になると筆者が考えているかを説明した次の文の 部 A ～ C に当てはまる言葉を、それぞれ漢字二字で書きなさい。

筆者は、子供があまり外に出ないで家の中ばかりで時間を過ごしていると、多くの A を身につけることはできるが、それでは B が不足して、心から C できることが少なくなり、ほんとうの意味で「物を知る」ことが難しくなると考えている。

問九 部⑫に当てはまる言葉を漢字三字で答えなさい。

問十 ――部⑭「賛成(ダコール)、とささやき合っているかのように」とありますが、ケヤキとスギが、どういうことに対して賛

成とささやき合っているように筆者には見えるのですか。文中の言葉を使って、三十字以内で書きなさい。

(句読点は字数に入れません。)

ページの数は問題はありません

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

〔文化祭に向けて、プラネタリウムを制作している久閑野高校天文部。進路に悩み、しばらく部活動に顔を出していなかった二年生の嵐士は、部長が作ったプラネタリウムを見て「偽物だ」と言い、一年生のえるも(私)とけんかになる。嵐士の幼なじみで、プラネタリウム作りのサポートをしてくれていた工業科二年生の淳の呼びかけで、天体観測をすることになった。〕

「綺麗……」

天球を覆いつくす、砂のようなきらめき。その鋭い光は、たしかにプラネタリウムの星とは比べ物にならなくて、悔しい。そりや、かなわない。本物の夜空には。

「見えるもんだね」

① 淳先輩がおどろいたように言った。そういえば、淳先輩と一緒に星を見るのは初めてだな。

② 冬は一番、星が綺麗に見える季節ですからね」

「へえ、そうなんだ？」

十一月の夜空には、もう冬の星座が輝いている。

吹き抜ける北風は、正直かなり身体にこたえるけど……、頭上に広がる冬の星座は、それだけの価値がある。冬は、一年で一番、星が綺麗な季節だから。

一つには、空気が乾燥していて透明度が高いから。気温が下がって、大気の③スイジヨウキ量が少なくなると、その分夜空が澄んで、星がよく見えるようになる。

もう一つには、星がきらきらとまたたいて見えるから。シンチレーションといって、気温や湿度が低いほど、また、風が強く吹

くほど、星の光は揺らぐ。④ボウエンキョウで見たり天体写真を撮ったりするときには、星像がブレることになるので、実は歓迎されなかつたりするんだけど、何気なく眺める分には、ちかちかまたたく冬の星は、やっぱり綺麗だ。

そしてなにより、冬は、明るい星の数が多いから。

「もう冬のダイヤモンドが見えてる」

オリオン座の赤い星ベテルギウスを囲むように、オリオン座のリゲル、おいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルクス、ぎよしや座の黄色い星カペラ、おうし座の赤い星アルデバランをつなぐと、冬のダイヤモンドと呼ばれる大きな六角形が浮かび上がる。

すべて一等星で、夜空を飾る色とりどりのアクセサリーみたいだ。秋の寂しい夜空とは⑤ダイシヨウ的な、あまりに華やかな輝き。

〈淳が昔、嵐士と山奥までおうし座流星群を見に行ったことを思い出す。〉

「⑥俺、そのときのこと、よく覚えてる。冬でも天の川って見えるんだなって」

「え？」

嵐士先輩が聞き返した。

「天の川って夏のものだと思ってたからさ。でも本当はぐるっと一周してるから、冬の夜空にもあるんだよな。考えてみれば当然なんだけど」

淳先輩の言葉に、嵐士先輩は、ああ、とうなずく。

「冬の天の川は、夏の天の川に比べると淡いから」

本当は、今だって、冬のダイヤモンドの間を、天の川が流れているはずだ。でも、見えない。冬の天の川は暗いから、夏以上に、

⑦ニクガンで見るのは難しいのだ。光害の少ない山奥に行けば、見えるのかもしれないけど。

「冬の天の川が淡いの、なんでなんですか？」

晴彦が嵐士先輩に尋ねた。

「⑧北半球が夏のとき、地球の夜側は銀河系の中心方向を向くから、たくさん星が見える。逆に冬は、星の少ない銀河系の端の方向を見ることになるから、天の川が淡く見える」

すらすらと答える嵐士先輩。を、淳先輩は、じっと見つめている。

「何」

「いや、やっぱりお前は変わってないなと思って。相変わらず星博士だな」

⑨淳先輩の言葉で、嵐士先輩は黙り込んだ。

本物の「星博士」になるのは、たぶんすごく、難しいから。

綺麗だけの夢は、偽物にすぎなくて。現実の前では、圧倒的に無力で。

——夢は夢だよ。

たしかに、そうなのかもしれない、けど。

淳先輩は何か続けようとして、でも途中でやめた。そして⑩いきなり、バン！って嵐士先輩の背中を叩く。

「痛っ！ なんだよ」

「あのさあ！」

淳先輩は、やたら大きな声を出した。

「お前が何を迷おうが勝手だし、決めるのはお前だけだよ」

そこで淳先輩は、私たち一年生のほうを見て。

「この子たちもさ、頑張ってるんだろ。それはわかっててやれよ」

「……ん」

「心配してんだよ、みんな。お前のこと」

明るい光^⑩ゲンキンの屋上では、近くにいても、表情を読み取るのは難しい。だけど。

「……ありがとう」

ごくごく小さな声で、嵐士先輩がそう言ったのを、私は聞き逃さ^{のが}なかった。

しばらくして、嵐士先輩が近寄ってきた。

「怒^{おこ}ってんの？」

なんて尋ねられたけど、無視してやる。

私は二号の注アイピースを覗^{のぞ}き込むふりをした。まだ何も導入してないから、なんにも見えやしないんだけど。

「……ごめん」

意地っ張りの私に、嵐士先輩は、ほとんど聞き取れないくらい小さな声で言った。

⑫。でもまあ、それは私も同じか。

私はボウエンキョウから顔を上げる。

「私も。ごめんなさい」

そして私は、夜空を見上げて。

白い息を吐^はき出す。

きらきらとまたたく星々は、遠い。とても。

「たしかに、こうやって見上げてると、やっぱり全然違^{ちが}いますね。どんなに高性能なプラネでも、絶対に本物の星空とは同じには

ならないなって、思います」

「うん」

自作のプラネタリウムで、実際の夜空を表現したいって、思った。自分たちの手で、星空を作り出したって。でも、星の数が全然足りないし、天の川も表現できない。

じゃあ、何千個も穴を開ける？ そんなの、無理に決まってる。

夢は夢。どんなにたくさん穴を開けたところで、偽物は偽物。まがい物の星だし。

本物と比べれば比べるほど、虚むなしくなるはず。

でも……。

「でも、考えたんですけど。本物の星空に近いほどいい、ってわけじゃないですよね」

現実とは違うから、意味ないのかな。

現実と違うから、いいんじゃないの？

だって、⑬ なんだから。

「そもそも、私がプラネを作りたいって思ったのは、生涯しょうがい学習センターで、ふだんは星に関心もなさそうなお客さんたちが、目をキラキラさせてプラネを見てたからで」

だってきつとあの人たちは、その日の夜、空を見上げるでしよう？

天体観測ってマイナーで、なかなかハードルも高いけど。

プラネタリウムは、その入り口になってくれる。

「本物とは違うからこそ、わかりやすく解説をして……ふだん星を見ない人に、星を好きになってもらいたい。その日の晩、本物の夜空を見上げてもらいたい。そのきっかけになるようなプラネを作れたら、それって素敵すてきじゃないですか？」

私が嵐士先輩に出会って、星を好きになったように。

私も、プラネを通じて、誰かと出会いたい。

たとえ現実とはかけ離れた光だとしても。

その光から生まれる可能性みたいなものを、信じてみたい。

「⑭たしかに、プラネの星空は偽物です。でも、意味がないってわけではないんじゃないですか？」

現実複雑で、厳しい。夢を追うのは、簡単なことじゃない。

でも、意味がないってわけでは、ないんじゃない？

「……そうだな」

嵐士先輩は、柔らかに息を吐いた。

「さつきは言いすぎた。ごめん」

二度目のごめん、は、少しだけ優しくして。

⑮ ああやつぱりこの人と一緒に星を見ていたい、なんて、私を甘えた気持ちにさせる。

(『アンドロメダの涙』天川栄人)

注 アイピース・・・レンズ。

問一 —— 部①「淳先輩がおどろいたように言った」とありますが、淳はどのようなことにおどろいているのですか。簡潔に書きなさい。

問二 —— 部②「冬は一番、星が綺麗に見える季節ですからね」とありますが、「冬は一番、星が綺麗に見える季節」である理由を、文中の言葉を使って五十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

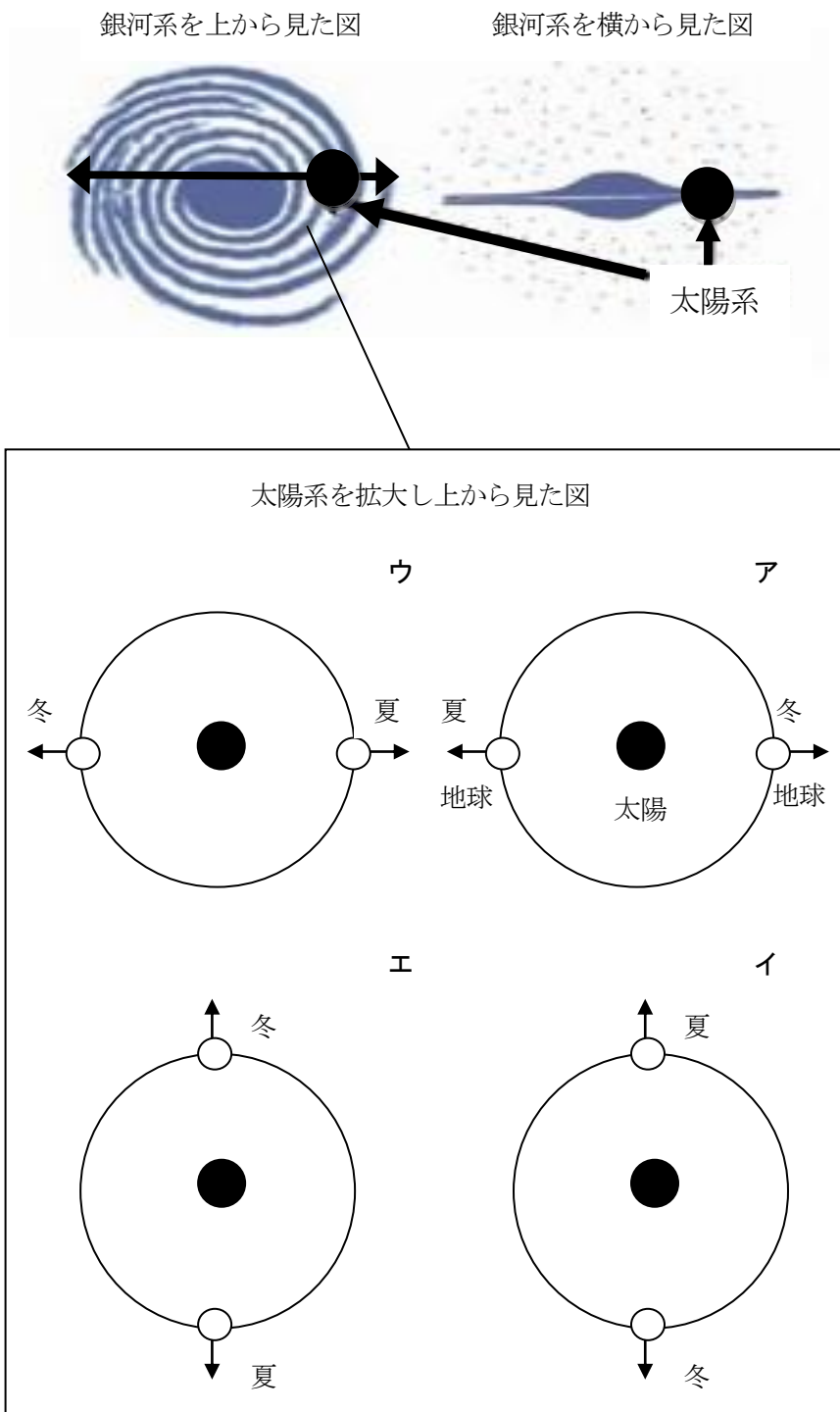
問三 —— 部③・④・⑤・⑦・⑩のカタカナを漢字に直しなさい。

問四 — 部⑥ 「俺、そのときのこと、よく覚えてる」とありますが、淳はなぜそのときのことをよく覚えているのですか。文中

の言葉を使って三十文字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問五 — 部⑧ 「北半球が夏るとき、地球の夜側は銀河系の中心方向を向くから、たくさん星が見える。逆に冬は、星の少ない

銀河系の端の方向を見ることになるから、天の川が淡く見える」という嵐士の説明を図にしたものとして、最も適当なものを次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。



問六 — 部⑨「淳先輩の言葉で、嵐士先輩は黙り込んだ」とありますが、なぜ嵐士は黙り込んだのですか。その理由を四十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問七 — 部⑩「いきなり、バン！ って嵐士先輩の背中を叩く」とありますが、淳がこのような行動をとった理由を説明したものとして最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小さなころから星座に詳しくあったが、今でも変わらず天体の知識が豊富な嵐士に感心する気持ちがあったから。

イ 天文部が険悪な空気になっていたが、その様子を全く気にしていない嵐士に強いいらだちを覚えていたから。

ウ 天文部員との天体観測を楽しみにしていたが、自分の一言で嵐士が黙り込んだことに内心あせっていたから。

エ 幼なじみの嵐士とは何でも話せる関係だと思っていたが、気持ちを打ち明けてもらえず悲しく感じていたから。

オ 言葉ではうまく伝えることができないが、悩みを抱えている嵐士をほげましたいという気持ちがあつたから。

問八 部⑫に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ほんとは、遠慮えんりょがない イ ほんとは、優しくない ウ ほんとは、責任感がない

エ ほんとは、素直すなおじゃない オ ほんとは、信用できない

問九 部⑬に当てはまる言葉を、文中から漢字一字でぬき出しなさい。

問十 — 部⑭「たしかに、プラネの星空は偽物です。でも、意味がないってわけではないんじゃないですか？」とありますが、えるものはなぜそのように考えているのですか。その理由を五十字程度で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問十一 — 部⑮「ああやっぱりこの人と一緒に星を見ていたい」とありますが、えるものこのときの心情を、解答らんに合わせて、具体的に六十字程度で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

嵐士とはけんかをしていたが、。